

昔は海だった釧路湿原

約 2 万年前

約 2 万年前の最終氷期は、気温は非常に低くなり、海面は今日よりも約 100 メートル低かったと言われています。現在海底にある多くの場所は、この時期、海面上にありました。

約 10,000～6,000 年前

氷河期後、温度が徐々に上昇するに従い、海面は海進と呼ばれる地質学的過程を経て上昇しました。約 6,000 年前には、海岸線が内陸に移動し、現在の釧路湿原は海水に覆われていました。この地域は旧釧路湾と呼ばれる大きな湾の一部でした。

約 6,000～4000 年前

約 4,000 年前、気温が再び下がり、海水が徐々に引いてゆく「海退」が起こりました。海は後退し、旧釧路湾の入り口に砂丘が発達しました。こうして旧釧路湾は海から切り離され、湿地帯は川から流入した堆積物がゆっくりと堆積し始めました。

現在の釧路湿原

海退の過程で、旧釧路湾の西側が上昇し、一方東側は大きく沈下しました。このような地形の変化により、塘路湖などにみられるような海跡湖と釧路川を含む河川ネットワークが形成されました。泥炭の堆積物が徐々に表面に堆積し、現在の湿原の地盤が形成されました。

過去 3,000 年にわたり、この地域は様々な種類の植物の繁殖地となってきました。釧路湿原の大部分は、スゲやヨシの湿原で覆われています。これらの植物に適する、水位、水の透明度、水中の土壌の種類は異なるので、それぞれ別の場所で繁殖します。スゲは、より水位の高い、日の当たる場所を好むため、池や河川の中央に繁殖します。白い房を持つ花を咲かせるミツガシワや淡い紫色の花を

咲かせるタネツケバナなど、色とりどりの花をスゲの間で見ることができます。ヨシは古代から動物や人間にとって重要な植物でした。擦文時代（700～1200 年）の人々は、茅葺き屋根にヨシを使用し、タンチョウは枯れたヨシで巣を作ります。

ハンノキ林も湿原に点在しています。ハンノキは、湿地で林を維持できる数少ない樹木です。この木は、窒素固定菌との共生で、栄養が欠乏している泥炭湿地で成長し、20－30 年間生きることができます。腐った切り株からは、新しい芽が出て、森林の自己再生という自然過程を開始します。